

日本・南アフリカ共和国共同コミュニケ
(仮訳)

2013年6月4日 東京

1. ジェイコブ・ズマ南アフリカ共和国大統領及び同大統領夫人は、安倍内閣総理大臣及び日本国政府の招待により、ヌコアナ=マシャバネ国際関係・協力大臣とともに、6月3日から4日まで日本国を訪問した。南アフリカ代表団には、チャバネ大統領府大臣、デイビス貿易産業大臣、ファン・スカルクヴェイク観光大臣、ムキゼ経済開発副大臣、及びネネ財務副大臣等が参加した。ズマ大統領は、6月1日から3日まで横浜で開催された第5回アフリカ開発会議（TICAD V）に出席した。
2. 6月4日、ズマ大統領は安倍総理と会談を行った。会談は、両国間に存在する友好と連帯の絆を反映し、和やかかつ友好的な雰囲気の中で行われた。両首脳は、両国間の友好関係と相互理解を更に促進するため協力していくことを確認した。
3. ズマ大統領は、双方にとって都合の良い時期に安倍総理が南アフリカを訪問するよう招請した。
4. 両首脳は、共通の関心事項である二国間や多国間の課題について幅広く意見交換を行った。二国間関係に関し、両首脳は、既に両国の間に包括的な政治的関係及び経済的関係が存在することを認識するとともに、特に、貿易投資、インフラ整備、科学技術、農業、及び人材開発などの分野において、関係を深め、強化し、多様化させていくことで一致した。
5. 多国間の課題に関し、両首脳は、グローバルな諸課題に直面する中で、国連安保理改革、ポスト2015年開発目標、核不拡散、軍縮及び気候変動等、様々な多国間の課題について両国が協力を進めていくことを再確認した。また、両首脳は、国連安保理改革の重要性を強調し、国連の諸課題に関する協議を通じ、協力と対話を強化することで一致した。
6. 日本と南アフリカは、2010年に両国関係を「戦略的協力関係」に引き上げ、両首脳はこの協力関係をさらに強化していくことを確認した。両首脳は、2013年3月1日プレトリアにおいて開催された第12回日・南アパートナーシップ・フォーラム会合の成果を想起し、両国間の戦略的協力関係を深化させていく必要性を強調した。
7. 両首脳は、東日本大震災に際する救援隊「レスキュー・サウスアフリカ」の派遣など、南アフリカからの温かい支援と連帯を想起し、防災分野における協力促進の重要性を強調した。

8. ズマ大統領は、安倍総理に対し、「新経済成長戦略(New Growth Path (NGP)」といった南アフリカの主要な政策イニシアティブについて説明した。NGP は、太陽光、風力やバイオ燃料の技術を開発するグリーン・エコノミーや新エネルギー計画への支援、新たな雇用機会を育むクリーンな製造業や環境サービス業、大規模な雇用創出につながる鉱物資源分野における付加価値化(ベネフィシエーション)、技術革新を通じたパフォーマンスの向上に基づく製造業の振興と工業化の促進、技能開発と投入コスト削減、観光業やその他の高度なサービス業の振興を含むものである。

9. 安倍総理とズマ大統領は、近年、両国の経済関係の結びつきが強固となっていることを満足の意を持って留意し、様々な技術の導入や付加価値化を通じ、貿易の拡大及び多角化するための機会を追求していくことで一致した。

10. ズマ大統領は、南アフリカ貿易産業省と東京三菱UFJ銀行、みずほ銀行及びJETROとの間でそれぞれ署名した協力促進の覚書につき言及し、同覚書は、今後の両国間の経済分野の交流に一層貢献すると説明した。

11. ズマ大統領は、南アフリカにおいて、雇用創出や技術移転に貢献する日本企業の役割を高く評価した。ズマ大統領は、南アフリカがビジネス展開に適した環境を提供している旨強調するとともに、日本企業に対し、南アフリカにおける活動を拡大し、南アフリカの経済の拡大を目指すインフラプロジェクトの入札に積極的に参入していくことを呼びかけた。

12. ズマ大統領は、安倍総理に南アフリカにおけるインフラ開発計画について説明した。この計画は、鉄道、道路、港、ダム、灌漑施設、下水設備、エネルギー生産施設、電力供給用送電システム、通信・ブロードバンド網の整備、病院・学校・大学等の社会施設等の整備を目指すものである。

13. ズマ大統領は、近年の南アフリカにおけるインフラ整備事業への日本企業の参入状況を認識しつつ、今後一層拡大するインフラ整備計画において、日本企業の更なる参加を呼びかけた。両首脳は、水、エネルギー、鉄道の現地産業の育成と近代化を含む運輸分野において両国の協力が進展していることを歓迎し、更なる協力を進めていくことを表明した。

14. 両首脳は、2013年5月18日、茂木経済産業大臣とシャバング鉱物資源大臣を共同議長とし、「日アフリカ資源大臣会合」が東京において開催されたことを歓迎した。安倍総理は、今後5年間で20億米ドルのリスクマネー供給支援と、資源分野での1000人の人材育成等を目指す日本の「日アフリカ資源開発促進イニシアティブ」に言及した。両首脳は、同会合の成果のフォローアップ協力への期待を表明した。

15. 両首脳は、自動車、鉱業の付加価値化、農産品加工の分野における経済産業省(METI)と貿易産業省(DTI)による共同研究の成果を歓迎した。本共同研究は、二国間の経

済関係の性質と構造を把握するためのツールであるとともに、両国間の貿易の拡大と多様化を目指す上での重要な一歩となる。両首脳は、双方に利益をもたらす貿易投資関係を構築する上で政府が民間とのパートナーシップの下に重要な役割を果たすべきことを確認した。両首脳は、共同研究による提言を実行することの重要性を強調した。

16. 日本と南アフリカは、科学技術、人材育成・能力強化、研究開発の分野において、引き続き、両国間の協力を強化していくことをコミットした。ズマ大統領は、関心のある日本企業、研究所及び学術機関によるSKA（Square Kilometer Array 電子天体望遠鏡）プロジェクトへの参加を招請した。

17. ズマ大統領は、南アフリカが抱える様々な開発課題への取組に資する日本の開発協力や融資に謝意を表明した。

18. ズマ大統領は、安倍総理に対し、TICAD Vの成功に祝意を示すとともに、日本の対アフリカ支援パッケージを歓迎した。同パッケージは、カイゼン等を通じた人材育成のほか、技術・職業訓練を含み、アフリカの成長、平和と安定、及び発展に資する官民による今後5年で最大約320億ドルの支援策である。

19. 安倍総理は、アフリカにとって、日本はインフラ分野における最大のドナーの一つである旨言及し、南北回廊におけるワンストップ・ボーダーポスト（OSBP）への日本の支援について説明した。また、安倍総理は、アフリカの様々な回廊開発における日本のインフラ整備支援について言及した。ズマ大統領は、南北回廊開発において南アフリカが果たしている中心的な役割について説明した。両首脳は、アフリカ大陸の更なる統合を目指す南北回廊開発について、両国による協力の可能性を追求していくことで一致した。

20. 両首脳は、アフリカが、アフリカ自身のオーナーシップに基づいて開発パートナーとの協力の下、経済開発を進めるためのアフリカ・アジェンダを支持していくことを再確認した。両首脳は、両国の民間セクターが産業開発に果たす役割と、双方向の貿易拡大に向けて対話を継続していることを評価した。

21. ズマ大統領は、アフリカの平和と安定に関する、南アフリカの考え方を説明した。安倍総理は、アフリカの平和と安定のために南アフリカが果たしている役割を評価するとともに、同分野での日本の貢献について説明した。両首脳は、同分野で更なる協力を追求することで一致した。

22. 安倍総理とズマ大統領は、世界の諸地域における平和と安定に向けた課題を認識するとともに、多国間プロセス及び紛争の平和的解決を通じ、これら課題に対処することの重要性を強調した。